



こうづき まさひろ
上月 正博 教授

～ 内部障害学分野 ～

講義題目

**リハビリテーションの啓発と
新領域の開拓**

略歴

- | | |
|----------------------------|---|
| 1981年3月 東北大学医学部卒業 | 2000年4月 東北大学大学院医学系研究科教授 |
| 1981年4月 いわき市立総合磐城共立病院 | 2002年4月 東北大学病院リハビリテーション部長（併任） |
| 1983年4月 山形県立中央病院 | 2002年4月 東北大学大学院医学系研究科機能医科学講座
主任教授（併任～2008年3月） |
| 1984年4月 東北大学医学部第二内科入局 | 2008年4月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻長
（併任～2015年3月） |
| 1987年4月 メルボルン大学医学部内科学上級研究員 | 2010年4月 東北大学大学院医学系研究科教授
（先進統合腎臓科学）（併任～2020年3月） |
| 1990年1月 岩手県立宮古病院 | 2022年3月 退職 |
| 1990年2月 医学博士号取得（東北大学） | |
| 1991年1月 東北大学医学部附属病院助手 | |
| 1997年5月 東北大学医学部附属病院講師 | |

上月正博教授は、1981年に東北大学医学部を卒業し、臨床研修を経て1984年に東北大学第二内科に入局されました。吉永馨教授、阿部圭志教授に師事し、学位論文「実験高血圧ラットの高血压進展および維持機構における心房性Na利尿因子(ANP)の役割」により医学博士を取得しました。1987年からメルボルン大学(Colin Johnston教授、Frederick Mendelsohn教授)に留学し、高血圧・心不全における組織レニン・アンジオテンシン系やエンドセリン受容体に関する研究を行いました。帰国後、第二内科助手を経て、1995年より内部障害学分野（佐藤徳太郎教授）に移り、心・腎・肺障害など内部障害とリハビリテーション（以下「リハ」と総称する）研究に軸足を延ばし、1997年講師、2000年教授に就任しました。内部障害リハ科長を22年、リハ部長を19年兼務し、教室の研究・診療・教育を展開させ国内トップクラスのリハ医学教室に育てました。

上月教授は、リハ医学のなかでも内部障害リハを専門とし、世界的な業績を上げ、わが国を代表するリハ科医の一人です。特に、慢性腎臓病に対するリハの有効性を基礎・臨床の両面から指摘し、慢性腎臓病の治療を「運動制限から運動療法へ」とコペルニクス的転回を果たし、ハンス・セリエメダル受賞、日本腎臓財団功労賞、日本リハ医学会最優秀論文賞、日本リハ医学会国際誌最優秀論文賞などを受賞しました。

教授在任22年間で171名の学位取得者（医科学・障害科学博士87名、障害科学修士84名）を輩出し、内定含むので国内で教授32名（医師13名、看護師6名、理学療法士・作業療法士・放射線技師8名、管理栄養士2名、運動学・福祉学3名）、准教授43名、学長2名、学部長4名、専攻長2名、

学科長 3 名を輩出しました。また、海外 8 つの大学・病院から客員教授・終身名誉教授の称号を得ました。

国立大学リハ部門代表者会議会長に加え、3つの学会理事長（国際腎臓リハ学会理事長、アジアヒューマンサービス学会理事長、日本腎臓リハ学会理事長）、10の学会理事（日本リハ医学会副理事長、日本心臓リハ学会理事、日本フットケア・足病医学会理事など）を歴任し、4つの国際学会学術集会（国際腎臓リハ学会、アジアヒューマンサービス学会など）、8つの国内学会学術集会（日本腎臓リハ学会、日本心臓リハ学会、日本リハ医学会など）を主催し、5つの国際学術誌の編集委員長を務め、6つのガイドラインの作成にかかわりました。

広報活動にも力を注ぎ、「元気！健康！フェア in とうほく」の実行委員長を9年、「健康の医学教室」の企画・司会を15年、朝日新聞連載60回、NHKテレビ出演40回、単著13冊、共著・編著33冊の出版活動などをつうじてリハの啓発や東北大学の宣伝に大きく貢献しました。